

凸版印刷の文化と現代化

中国人民大学学生代表

見学日時：2018年6月1日（金） 14:00-15:30

見学場所：凸版印刷博物館

見学概要

東京の湿り気を帯びた夏の風の中、私たちはうららかな午後に凸版印刷博物館を訪れた。

館内に入り、私たちはガイドの案内の下凸版印刷の百年の成長の歴史を目の当たりにした。ここでは時間軸に沿って凸版印刷の百年における製品の進化や発展の状況が展示されていた。ギャラリーの前半部分ではガイドから主に凸版印刷株式会社の沿革、企業文化、創始者についての紹介の他、印刷業の発展についてのお話があった。後半部分では同社の科学技術の粋を集めた製品の体験があり、私たちは目新しい表情識別システムの他、人工知能設備なども目にした。

ギャラリーの見学を終え、私たちはVRシアターに向かった。ここでは先進的な操作システムを通して自在な視点からの映像を観賞した。私たちにとつてこうした体験は初めてのものであった。

最後に私たちは印刷文化の歴史について見学した。そしてDIYの記念品を制作し、楽しく充実した見学を終えた。



なぜですか？

凸版印刷は当初、印刷企業として事業を展開していたが、100年余りの発展を経て、現在では包装、セキュリティ、電子デバイス、デジタル画像生成及びライトガイド等の分野において幅広く事業を行う一流企業となっている。また一見すると、従来の印刷と新興の情報通信とは何の関連もないように感じられるが、凸版印刷は企業の発展において自らの経営モデルを見出し、フォーチュングローバル 500 社に入るなど名高い存在となっている。



感想

意義深い見学とは、往々にして出会う人や体験する事柄と関係がある。凸版印刷の経営モデルの紹介の際、ガイド自身、自社に対する自らの考え方などを交えていた。この点から日本企業の従業員の自らが所属する企業への帰属感や思いを感じることができた。見学もまた非常に楽しかったが、これは人工知能がもたらす目新しさや楽しさだけでなく、私たちの生活における利便性を大きく高める科学技術の発展の速さへの感慨という一面もあった。凸版印刷の事業分野は様々な産業に及び、多くの著名な大企業が顧客となっており、アウトソーシング、資本管理、イノベーション経営等は凸版印刷を大きく成長させた要素となっている。